



平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年9月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ミルボン
コード番号 4919 URL <http://www.milbon.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐藤 龍二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 村井 正浩

TEL 06-6928-2331

四半期報告書提出予定日 平成22年10月22日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成21年12月21日～平成22年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	14,345	1.5	2,770	18.7	2,601	18.2	1,523	28.8
21年12月期第3四半期	14,128	—	2,333	—	2,200	—	1,183	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	121.59	—
21年12月期第3四半期	94.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	20,392	17,406	85.4	1,388.83
21年12月期	20,353	16,653	81.8	1,328.80

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 17,406百万円 21年12月期 16,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	27.00	—	28.00	55.00
22年12月期	—	27.00	—	—	—
22年12月期 (予想)	—	—	—	28.00	55.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成21年12月21日～平成22年12月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,860	3.5	3,620	10.4	3,370	8.6	1,910	7.0	152.40

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名

）、除外 一社（社名

）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 22年12月期3Q 12,544,408株 21年12月期 12,544,408株

② 期末自己株式数 22年12月期3Q 11,549株 21年12月期 11,617株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 22年12月期3Q 12,532,839株 21年12月期3Q 12,532,959株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1.	当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1)	連結経営成績に関する定性的情報	2
(2)	連結財政状態に関する定性的情報	3
(3)	連結業績予想に関する定性的情報	3
2.	その他の情報	4
(1)	重要な子会社の異動の概要	4
(2)	簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3)	会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4)	継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3.	四半期連結財務諸表	5
(1)	四半期連結貸借対照表	5
(2)	四半期連結損益計算書	7
	【第3四半期連結累計期間】	7
	【第3四半期連結会計期間】	8
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4)	継続企業の前提に関する注記	11
(5)	株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、内外での景気対策や新興国における需要回復等を背景に緩やかな回復の動きを示しています。ただ、自律的回復力は弱く、厳しい雇用状況や慎重な設備投資状況、さらには円高やデフレ懸念等もあることから、個人消費の動向は、一部で持ち直しの動きが見られるものの、依然として厳しい状況で推移いたしました。

美容業界におきましても、来店サイクルの伸びによる客数の減少、客単価の低下に加え、少子高齢化、人口動態の変化の影響等により、依然として厳しい環境であったと推測しております。

そのような状況のもと、当社グループといたしましては、「なりたい女性像」をかなえるヘアデザイン創りのために、「複合提案力のある売れるプロのデザイナー育成」を支援することを基本方針とした政策推進活動に引き続き取り組んでまいりました。なかでも、美容室の中心顧客である団塊ジュニアを中核とする大人の女性に向けた、加齢に伴う髪の悩みを解消することを目的としたトリートメント効果の高いヘアケア製品や、白髪染め用カラー剤の売上が順調に推移したこと、グループ全体としては前年同期売上高を上回る結果となりました。

100%子会社であるMILBON USA, INC. は、米国ストレートパーマ市場の競争激化に伴い、売上の中核をなしていた主力のストレートパーマ剤「リシオ」とメンテナンス用のヘアケア製品の売上減少が続いています。美容室に対するトリートメントメニュー提案を軸とした市場活動に取り組み始めているものの、ストレートパーマ関連製品の売上減少を補うことができず、前年同期売上高を下回る結果となりました。

平成21年2月より、営業を開始しました100%子会社であるMilbon Trading (Shanghai) Co., Ltd. は、華東地区（上海市、江蘇省、浙江省）と華南地区（広東省、福建省）の富裕層を獲得している地域トップサロンに絞って営業活動の展開により、新規窓口づくりが進捗しました。また、パーマネントウェーブ用剤の販売開始を機として、総合的なヘアデザインやサロンメニューの提案活動を積極的に推進したことにより、売上は順調に推移いたしました。

平成21年12月より、営業を開始しました100%子会社であるMilbon Korea Co., Ltd. は、競合他社との差別化に向け、個々の美容室や自社の教育スタジオでヘアカラーの教育活動を積極的に展開しました。その結果、ヘアカラーの導入店が大幅に増加するとともに、サロントリートメントメニューを中心とするカラー関連製品の導入が促進されたことで、売上は順調に推移いたしました。

厳しい環境ではありましたが、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は、143億45百万円（前年同期比1.5%増）で、2億16百万円の増収となりました。

営業利益は27億70百万円（前年同期比18.7%増）、経常利益は26億1百万円（前年同期比18.2%増）、四半期純利益は15億23百万円（前年同期比28.8%増）となりました。

部門別売上高は次の通りです。

【連結部門別売上高】

部門	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額 金額(百万円)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
パーマネントウェーブ用剤	1,527	10.8	1,514	10.6	△12
ヘアケア用剤	7,180	50.8	7,309	51.0	129
染毛剤	5,210	36.9	5,314	37.0	103
その他	210	1.5	206	1.4	△3
合計	14,128	100.0	14,345	100.0	216

(パーマネントウェーブ用剤部門)

景気低迷の影響からくるパーマメニュー頻度の低下と、トレンドの変化によるパーマ比率の低下等により、業界全体としては減少していると推測しております。

そのような状況のもと、当社グループといたしましては、4月に発売しました、髪質に応じて丸みを感じる柔らかいシルエットを表現するストレートパーマ剤「リシオグランフェ」および、6月に販売しました、加齢とともに低下する髪のボリュームをコントロールする全く新しい概念のパーマ剤「リフェーム」によって、パーマ需要の喚起に努めてまいりましたが、パーマネントウェーブ用剤部門全体としては前年同期売上高を下回る結果となりました。

(ヘアケア用剤部門)

一般市場のヘアケア製品と、プロユース市場の美容室専売品との競合が一段と厳しい状況となっているなか、毛髪の傷みを修復するサロントリートメントメニューを中心としたヘアケアへの取り組みにより、業界全体としては微増であったと推測しております。

そのような状況のもと、当社グループといたしましては、3月に発売しました、加齢に伴う髪のパサつきと、髪の弾力の低下で悩む大人の女性に向けた、洗い流さないトリートメント「ディーセスアプラウ」の販売が順調に推移したことと、昨年7月に販売しました、「インフェノム ディリーケア」を始めとする、顧客の髪の悩みを解消することを目的とした、サロントリートメント剤の売上が着実に伸長してきたことにより、ヘアケア用剤部門全体としては前年同期売上高を上回る結果となりました。

(染毛剤部門)

消費者の生活防衛意識と節約志向からくる来店サイクルの伸びによる客数の減少と、家庭で手軽に施術できる一般市場製品との競争激化により、業界全体としては減少傾向にあると推測しております。

そのような状況のもと、当社グループといたしましては、白髪染め市場の拡大に向けて、ヘアデザイナーのヘアカラー技術と提案力の向上を目的としたセミナーの全国展開と、顧客へのシーズンカラー（流行に合わせた季節毎の色味）の提案活動に努めてまいりました。その結果、ファッションカラーと変わらない色味で白髪をしっかりと染め上げる「リセンチ」、傷んだ髪に負担をかけずに白髪を染める「ファルグラン」の伸長により、染毛剤部門全体としては前年同期売上高を上回る結果となりました。

(その他)

特筆すべき事項はありません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して38百万円増加の203億92百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末と比較して1億75百万円増加の71億63百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金が2億29百万円、商品及び製品が1億98百万円、原材料及び貯蔵品が1億3百万円それぞれ増加したものの、受取手形及び売掛金が3億70百万円減少したことによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末と比較して1億37百万円減少の132億28百万円となりました。主な変動要因は、減価償却費の計上による減少7億円及び東京支店の増改築費用などの資産取得による増加7億46百万円と上場株式の時価の下落に伴い、投資有価証券が1億27百万円減少したことによるものであります。

流動負債は前連結会計年度末と比較して7億11百万円減少の25億34百万円となりました。主な変動要因は、支払手形及び買掛金の減少4億38百万円と未払金の減少3億93百万円及び賞与引当金が2億2百万円増加したことによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末と比較して、大きな変動はありませんでした。

純資産は前連結会計年度末と比較して7億52百万円増加の174億6百万円となりました。主な変動要因は、利益剰余金の増加8億34百万円と株式相場の低迷によりその他有価証券評価差額金が70百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の81.8%から85.4%となりました。期末発行済株式総数に基づく1株当たり純資産は、前連結会計年度末の1,328円80銭から1,388円83銭となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は営業活動で獲得した資金を、納税による法人税等の支払及び配当金の支払等で使用した結果、前連結会計年度末に比べて2億28百万円増加し、当連結会計期間末残高は18億95百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は15億59百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益25億81百万円の計上、減価償却費7億円と法人税等の支払額11億62百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は6億45百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5億82百万円、無形固定資産の取得による支出1億67百万円と保険積立金の解約による収入1億16百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は6億84百万円となりました。これは主に株主さまへの配当金支払額6億84百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、前回予想（平成22年6月25日発表）からの変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

(棚卸資産の評価方法)

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,896,118	1,666,170
受取手形及び売掛金	2,434,258	2,804,683
商品及び製品	1,845,295	1,646,427
仕掛品	24,887	17,417
原材料及び貯蔵品	603,718	499,852
その他	367,222	362,286
貸倒引当金	△7,776	△9,017
流動資産合計	7,163,724	6,987,821
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,408,629	3,627,958
機械装置及び運搬具(純額)	1,055,250	1,306,380
土地	4,763,766	4,763,766
建設仮勘定	1,094,672	709,139
その他(純額)	250,305	233,024
有形固定資産合計	10,572,624	10,640,269
無形固定資産	411,050	318,593
投資その他の資産		
投資有価証券	1,180,275	1,307,670
その他	1,101,590	1,164,694
貸倒引当金	△36,669	△65,160
投資その他の資産合計	2,245,196	2,407,204
固定資産合計	13,228,872	13,366,068
資産合計	20,392,596	20,353,890
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	—	953,356
買掛金	514,664	—
未払金	976,894	1,370,388
未払法人税等	467,167	571,930
返品調整引当金	13,984	31,720
賞与引当金	264,841	62,685
その他	297,425	256,617
流動負債合計	2,534,978	3,246,698
固定負債		
債務保証損失引当金	39,000	39,000
その他	412,563	414,633
固定負債合計	451,563	453,633
負債合計	2,986,541	3,700,331

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	199,120	199,120
利益剰余金	15,472,337	14,637,996
自己株式	△38,234	△38,572
株主資本合計	17,633,222	16,798,543
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△141,989	△71,571
為替換算調整勘定	△85,178	△73,412
評価・換算差額等合計	△227,167	△144,984
純資産合計	17,406,055	16,653,559
負債純資産合計	20,392,596	20,353,890

(2) 四半期連結損益計算書
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年12月21日 至平成21年9月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月21日 至平成22年9月20日)
売上高	14,128,162	14,345,031
売上原価	5,131,452	4,803,155
売上総利益	8,996,710	9,541,875
販売費及び一般管理費	6,663,031	6,771,603
営業利益	2,333,678	2,770,272
営業外収益		
受取利息	2,329	1,041
受取配当金	14,322	21,669
投資有価証券売却益	—	1,287
社宅負担金	24,849	30,992
企業立地奨励金	27,520	—
保険解約差益	24,810	26,579
その他	13,074	15,009
営業外収益合計	106,906	96,580
営業外費用		
支払利息	679	—
売上割引	239,318	249,376
その他	304	15,780
営業外費用合計	240,303	265,156
経常利益	2,200,282	2,601,696
特別利益		
固定資産売却益	887	91
貸倒引当金戻入額	15,000	4,384
特別利益合計	15,887	4,475
特別損失		
固定資産売却損	606	79
固定資産除却損	83,675	16,502
投資有価証券評価損	—	8,272
貸倒引当金繰入額	27,972	—
工場移転費用	21,760	—
特別損失合計	134,015	24,854
税金等調整前四半期純利益	2,082,154	2,581,318
法人税、住民税及び事業税	990,884	1,072,239
法人税等調整額	△92,083	△14,762
法人税等合計	898,801	1,057,476
四半期純利益	1,183,352	1,523,841

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年6月21日 至平成21年9月20日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年6月21日 至平成22年9月20日)
売上高	4,738,788	4,914,138
売上原価	1,812,278	1,613,452
売上総利益	2,926,509	3,300,686
販売費及び一般管理費	2,285,327	2,256,298
営業利益	641,182	1,044,388
営業外収益		
受取利息	599	369
受取配当金	12,453	16,689
社宅負担金	8,638	10,843
その他	△3,952	815
営業外収益合計	17,738	28,718
営業外費用		
支払利息	295	—
売上割引	85,401	88,887
その他	297	2,512
営業外費用合計	85,994	91,399
経常利益	572,926	981,706
特別利益		
固定資産売却益	—	4
貸倒引当金戻入額	—	974
特別利益合計	—	978
特別損失		
固定資産除却損	39,406	3,013
投資有価証券評価損	—	8,272
貸倒引当金繰入額	27,972	—
工場移転費用	21,760	—
特別損失合計	89,139	11,285
税金等調整前四半期純利益	483,786	971,399
法人税、住民税及び事業税	275,155	440,890
法人税等調整額	△61,979	△55,312
法人税等合計	213,175	385,578
四半期純利益	270,611	585,821

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年12月21日 至平成21年9月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月21日 至平成22年9月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,082,154	2,581,318
減価償却費	809,631	700,501
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	18,716	△29,212
賞与引当金の増減額 (△は減少)	192,134	202,180
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	2,112	△17,735
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	913
前払年金費用の増減額 (△は増加)	42,563	32,488
受取利息及び受取配当金	△16,651	△22,711
支払利息	679	—
為替差損益 (△は益)	10,532	△1,537
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1,287
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	8,272
固定資産売却損益 (△は益)	△280	△12
固定資産除却損	83,675	16,502
売上債権の増減額 (△は増加)	301,082	369,890
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△15,982	△314,970
仕入債務の増減額 (△は減少)	479,285	△428,901
その他	△211,553	△202,832
小計	3,778,101	2,892,866
利息及び配当金の受取額	17,075	22,982
利息の支払額	△679	—
役員退職慰労金の支払額	—	△194,441
法人税等の支払額	△1,377,772	△1,162,144
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,416,725	1,559,263
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△499,966	—
投資有価証券の売却による収入	400,000	2,400
有形固定資産の取得による支出	△993,282	△582,608
有形固定資産の売却による収入	2,275	3,846
無形固定資産の取得による支出	△109,989	△167,256
貸付けによる支出	△41,112	△5,490
貸付金の回収による収入	46,330	17,393
定期預金の預入による支出	—	△1,093
定期預金解約による収入	48,337	—
差入保証金の差入による支出	△35,745	△64,963
差入保証金の回収による収入	7,093	42,020
保険積立金の積立による支出	△8,223	△3,974
保険積立金の解約による収入	62,861	116,422
その他	△932	△2,193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,122,353	△645,496

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年12月21日 至平成21年9月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年12月21日 至平成22年9月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△21,695	—
自己株式の純増減額(△は増加)	△277	143
配当金の支払額	△696,883	△684,973
財務活動によるキャッシュ・フロー	△718,855	△684,829
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24,159	△15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	551,357	228,921
現金及び現金同等物の期首残高	1,010,784	1,666,170
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,562,141	1,895,092

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。